

新型インフルエンザ対策

2009年9月10日 VFC 呉 克昌

新型インフルエンザとは？

新型インフルエンザとは、新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザであって、一般に国民が免疫を獲得していないことから、全国的かつ急速なまん延により国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいいます。

今回の新型インフルエンザは、その遺伝子が豚インフルエンザのものに似ていることから、確認当初は豚インフルエンザと呼ばれました。その後の研究で、今回のインフルエンザウイルスが豚インフルエンザウイルスの遺伝子のほかに、鳥インフルエンザウイルス及びヒトインフルエンザウイルスの遺伝子も持つことが確認されています。

以上、厚生労働省 HP「新型インフルエンザに関する Q&A」(5月22日版)より

新型インフルエンザの国内での広がり

国内で7月24日までに新型インフルエンザにかかったと報告があった人数は4,986例でした。その後、全国での全数調査は中止され、約5,000の定点医療機関からの報告に移行されています。2009年第28週頃から急激に報告数が増え、第32週(8月3日～9日)では、報告数が4,630例で、全国で約60,000例の患者が発生していると推定されました。また、定点当たり報告数は0.99で、通常の季節性インフルエンザの全国的な流行の指標とされている1.0に近い数字となりました。第34週(8月17日～23日)では、報告数11,636例、全国で約15万例の患者発生数の推計、定点当たり報告数2.47となり、感染の拡大がみられる状況です。

最新の情報では、第35週の8月最終週では第34週より1.7倍の報告数があり、地域差はありますが、全国的に人から人への感染が非常に広がっている状況です。

したがって、新型インフルエンザは当初国内で報告されたような特定の感染ルート(海外旅行経験者やそのつながり)で発生するのではなく、不特定なルートでの広がりを見せている段階であり、人口密集地域ではどこにでも新型インフルエンザウイルス感染の機会があると考えた方がよい段階であると言えるでしょう。

養豚生産者として、新型インフルエンザについて理解すべき重要項目は？

1. 豚肉は食べても安全です。
2. 日本の養豚場で発生報告はありません。
3. 人から人へ容易に移ります。人から豚への感染も予想され、現時点での豚への感染源は人のみです。
4. 豚から人への感染の報告は世界的にもありません。
5. 最も注力すべきことは、新型インフルエンザに感染した人から養豚場の豚に感染することを防ぐことです。

養豚生産者の新型インフルエンザ対策

1. 今まで実施している農場の防疫対策(バイオセキュリティ)の徹底実施。
2. 体調不良な従業員、及び家族に体調不良な人がいる従業員の入場を避け、いち早く、医療機関の診察を受けること。
3. 農場に入る外来者をできるだけ制限し、必要不可欠な人のみとすること。訪問者には通常通り、シャワーインと衣服交換の実施の他、マスクを着用してもらうこと。
4. 農場内での衛生管理の徹底。すなわち、手洗いの励行、衣服の交換、マスクの着用。一部の報告では症状(発熱、咳、のどの痛みなど)が出る前にウイルスの排泄が始まっているとするものがありますから、ここに至っては、事前のマスク着用が有効と考えます。
5. できるだけ人ごみに行かないこと。どうしても行く場合は、
 - 1) 密室(例えば、飛行機や電車の中)ではマスクを着用すること。
 - 2) 人の触ったものには極力触らないこと。
 - 3) 手洗いを頻繁に行うこと。それができない時は、アルコール系のウェットティッシュで手を拭くこと。
 - 4) 咳をしている人の2m以内に近づかないこと。
6. 季節性インフルエンザのワクチン接種を受けること。
7. 10月以降に使用開始となる新型インフルエンザワクチンの接種をできるだけ早く受けること。

以上